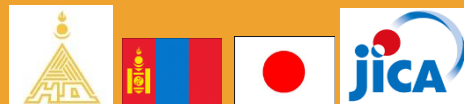


サラン医療・社会保険庁副長官兼
長官代理とゲレルマー社会保険サ
ービス開発課長との協議



★プロジェクトホームページを開設しました★ [HTTP://WWW.JICA.GO.JP/PROJECT/MONGOLIA/014/INDEX.HTML](http://www.jica.go.jp/project/mongolia/014/index.html)

JICA 社会保険実施 能力強化プロジェクト ニュースター第 2 号



2016 年 9 月

主な内容 (次項)

サラン医療・社会保険庁副長官兼 長官代理への表敬 (写真トッパ)

8月31日、サラン医療・社会保険庁副長官兼長官代理(上写真中央)への表敬を行い、プロジェクトの概要や進捗につき、説明を行いました。サラン長官代理からは、「このプロジェクトにより、社会保険業務の改善が進むことや、またプロジェクトの活動や効果がモンゴル全体へ展開することを期待している」旨、発言がありました。



アルタンホヤグ医療・社会保険庁副 長官への表敬 (写真上↑)

8月25日、先般着任したアルタンホヤグ医療・社会保険庁副長官(写真右から2番目)と面会をしました。アルタンホヤグ副長官からは、「自分が長官の時にこうしたプロジェクトを行うべきと提案したものが形となって嬉しい、モンゴルにとって意義深いものであり、プロ

ジェクトの成功のために、頑張っていましょ
う」と心強い発言がありました。

ムンフゾル労働・社会保障省政策実 施局長との面会 (写真下↓)

8月26日、ムンフゾル局長(下写真中央)およびバトジャルガル・シニアオフィサー(下写真左)と今後の活動について協議を行いました。主に、この秋に予定している労働・社会保障省および医療・社会保険庁の職員を対象とした日本での研修内容や、日本からモンゴルへ派遣する短期専門家による研修などにつき、意見交換を行いました。



**(おさらい) 社会保険実施能力強化プロジ
ェクトとは?** モンゴルにおける、社会保険適用、保
険料の徴収および給付に関する能力の強化を目
的とし、JICA、労働・社会保障省、医療・社会保
険庁が実施している技術協力プロジェクトです。



連載「草原の国の社会保障」第 2 話

モンゴルにおける社会保険の実情や、本プロジェクトを通して学んだ事などを随時お伝えいたします。今回は、鉱山の町「エルデネット市」についてです。(写真: エルデネット鉱山)



ロータリークラブでの講演

ウランバートル・ロータリークラブにおいて、当プロジェクトの内容や日本の年金制度等について、講演をしました。

草原の国の社会保障（第2話）

皆さま、こんにちは。

当プロジェクトを遂行していくためには、モンゴルの方々に社会保障の必要性を訴えていく必要があります。また、同時に社会保障はそれだけでは決して成り立ちません。モンゴルの経済がしっかりしてはじめて社会保障も安定します。今回は、モンゴルの主要産業である鉱業で発展した街から見た、今後のモンゴル社会について、考えてみたいと思います。

モンゴルの首都ウランバートルから車で約 5 時間のところに、エルデネットという人口 10 万人の街があります。当時のソビエト連邦との出資でできた鉱山会社が 1970 年代にでき、その会社が大きくなっていくことで出来上がった街です。以来、約 40 年間、銅とモリブデンを採掘することで、発展してきました。働く労働者の月収は、モンゴルの全国平均よりも 3 割以上高く、首都のウランバートルと比べても 2 割以上高い、約 5 万 4 千円となっており、全国で一番裕福な県です。産出した鉱石は

その場で砕いて鉄道で中国 Medipas 病院→へ輸出します。露天掘りされた広大な鉱山を見ると、豊富な鉱山資源に恵まれたモンゴルの豊かさを感じます。



← 鉱山機械のタイヤ横に立つ筆者。

一方で、エルデネット鉱山もあと 30 年すれば、掘り尽くされてしまいます。今の世代でこれからのエルデネット市の産業を考えていく必要があるでしょう。今後の産業として考えられている候補の一つが「医療・福祉産業」です。この構想の中心となる Medipas 病院では、先端の医療機器を備え、市の大半の住民が従事しているエルデネット鉱山会社の従業員の健康管理を行うとともに、ゆくゆくは入院設備を整え、隣県の急性期医療を担う他、高齢者ケアも考えていきたいとのことでした。



我が国も、1970 年に 3.5 兆円に過ぎなかった社会保障給付費が、現在では、120 兆円近くまで伸長し、国民所得に占める社会保障給付費の割合も 6%弱から 31%となっています。経済の発展によって社会保障も進展しましたが、今では、医療や介護といった社会保障サービスが産業として経済成長を促し、また、年金給付が地域の経済を支える関係となっています。こうした経緯を伝えることで、モンゴルの社会保障が更に発展していくきっかけになればと願っています。

チーフアドバイザー 山下 護

¹ Mongolian Statistical Yearbook 2015 より

ロータリークラブにおいて、講演を行いました。



↑ 講演の様子。

8月24日、バヤンゴルホテルにて開催されたウランバートル・ロータリークラブ総会において、プロジェクトや、日本の年金政策等について、山下チーフアドバイザーが講演をしました。

参加者からは、「日本において年金のシステム構築が、いかに日本の経済成長に寄与したか理解できた」、そして「現在は若年層が多くを占めるモンゴルですが、将来迎える高齢化社会に備えるため、今から年金保険料を支払っていくことの重要性について認識した」などの感想が寄せられました。



↑ 参加者たちとの記念撮影。

ボロルマー・プロジェクトアシスタントが着任しました！



9 月からプロジェクトアシスタントとして働くことになり、大変嬉しく思います。モンゴルの社会保険制度の改善、社会保険に対する国民の理解を広げるためにチームの皆様と力を合わせて頑張っていきます。ご指導、ご協力のほどどうぞ宜しくお願い致します。

プロジェクト・オフィス住所・連絡先

住所 : Khuulichid Street, Chingeltei District, Ulaanbaatar 15160, モンゴル社会保険庁内 6 階 602 号室

電話(FAX)番号 : (+976)-11-325125

ニュースレターのバックナンバーはこちらから

<http://www.jica.go.jp/project/mongolia/014/newsletter/index.html>